

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 30 日現在

機関番号：32204

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26381009

研究課題名(和文) 高等学校における学力評価システムの改善モデルの構築と評価に関する調査研究

研究課題名(英文) Development and Assessment of Evaluation Systems for Scholastic Ability of Students in High Schools

研究代表者

小泉 祥一 (KOIZUMI, Shoichi)

白鷗大学・教育学部・教授

研究者番号：30136410

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：高等学校における学力評価システムの改善モデルについて、小・中学校における学力評価方式との関連性と教育課程経営のPDSサイクルの視点からの検討の重要性を明確にした上で、現行の4観点別評価と評定を見直し、結果、知識・技能、論理的思考力、主体的学習態度の3観点と達成、要努力の2段階による目標に基づく評価と、自由記述方式による目標にとられない評価を合わせた学力評価システムの改善モデルを提案した。これを実現させる条件として、教育専門性による校長等のリーダーシップと校内の教育実践と評価に関する情報交換ネットワーク、さらに教育委員会の主体的な教育条件整備活動と大学入試改革の重要性を指摘した。

研究成果の概要(英文)：A new model of criterion-referenced assessment should include assessments of knowledge, skill, thinking, and attitude. It is to be a two-grade (A or B) evaluation. A new model of assessment should include criterion-referenced assessment and goal-free evaluation. In order for this assessment system to be realized and made to function, formation of an information network is required. Moreover, the leadership of a principal and a vice-principal, with specialist knowledge in education is required. In addition, the board of education should provide the necessary conditions for supporting these measures in high schools.

研究分野：社会科学

キーワード：教育評価 学力評価 指導要録 学習評価 教育課程経営 高等学校

1. 研究開始当初の背景

(1) 高等学校の指導要録に基づく学力評価方式(4観点3段階評価、5段階評定)については、義務教育学校ほど観点別評価の十分な定着は見られず、それゆえ「指導要録において観点別学習状況を記載」することなど、その改善が大きな課題となっている。現在、「きめの細かい学習指導の充実と生徒一人一人の学習内容の定着を図る」ことにより、「高等学校教育の質の保障」が強く求められている(中教審教育課程部会報告『児童生徒の学習評価の在り方について』2010年3月24日)。また、観点別評価に比較的取り組んでいる場合でも、観点別評価の取り扱いと構造、A・B・Cの3段階評価のあいまいさと相対評価化傾向、観点別評価の評定化の方法、評定の相対評価化傾向など、評価システムおよび評価技術上さまざまな問題もみられる。さらに、その評価方式が生徒の学習において改善の手がかりや見通しを与えるものとは必ずしもなっていないという状況もみられる。

(2) この点について、日本教育方法学会、日本カリキュラム学会、野外文化教育学会、東北教育実践・経営学会などにおける研究発表等をとおして、問題状況を分析し、改善方策の手がかりを得るために議論し、検討してきた。その結果、3観点2段階評価と自由記述による学力評価モデルを提案した。

2. 研究の目的

(1) 研究の全体構想としては、平成22年5月改訂の高等学校生徒指導要録にみられる学力評価の有効性と問題性を生徒の学習意欲の向上の視点から実証的に分析し、学力評価方式の特徴と課題を踏まえ、高等学校における学力評価システムの改善モデルの有効性と実現性を提示することである。

(2) そのために本研究では、高等学校における指導要録の学力評価方式の取り組み実態を調査分析し、学力評価の特徴と課題を把握し、学力評価システムを、生徒の学習意欲を高め、教育合理的で、かつ実現可能な改善モデルとして構築し、実証的に評価するとともに、それが効果的に機能するための条件・課題について提示することを目的としている。

3. 研究の方法

(1) 研究手順として、全国の教育委員会調査、意欲的に研究開発を進めているいくつかの高等学校調査(特に神奈川県など)の実態調査研究、および文部科学省調査をもとに、学力評価方式の実態と問題点を明らかにするとともに、高等学校における学力評価システムの改善モデルを構築する。

問題分析、資料分析。文部科学省と都道府県・政令指定都市の教育委員会にお

ける高等学校の指導要録改訂に関する審議会資料と学力評価方式に関する手引書や調査資料および文献を収集し、分析し、何を根拠にどのような学力がどのように評価されているかを整理する

全国調査。都道府県と政令指定都市の教育委員会に対して、高等学校における指導要録の記載方法(学力評価方式)についてどのような指導助言や支援活動がなされているかを調査する。

事例研究。学力形成や学力評価の研究開発に力を入れている高等学校(研究協力者の勤務校を含む)に対して、学力形成と学力評価にどのような工夫がなされているかを調査する。

上記の調査研究を踏まえて、高等学校の学力評価システムの改善モデルを構築する。

構築した学力評価システムの改善モデルについて、本研究の研究協力校(研究協力者の勤務する高等学校)において試行することによって実証的に評価するとともに、それが効果的に機能するための条件・課題について析出する。

4. 研究成果

(1) これまでの学力評価研究における「評価規準」「評価基準」作成の精緻化傾向にみられる問題点を指摘し、観点別評価と評定の相対評価化傾向の問題点、さらに観点別評価を評定に総括する方法の問題点を明確にし、評価システムおよび評価技術上の課題を浮き彫りにした点。

高等学校における学力評価について、教育委員会調査からは、成績支援システム等を導入している一部の教育委員会を除いて、文部科学省の提示する指導要録の参考様式がそのまま使用され、観点別評価の観点の工夫や新たな観点の設定等、教育委員会としての創意工夫がみられず、高等学校任せになっていることがわかった。

高等学校調査からは、評定を作成する場合、観点別評価から総括するという方法については、一部の学校でみられたが、ほとんどの場合、定期試験の評価を基礎に平常点とレポート等を加味して行うという方法がとられていた。また、観点別評価については、教師が授業を行う際の指導事項や指導の観点として扱われることが多いことがわかった。その主な理由として、高等学校における長年の慣行や大学入試における調査書の扱いにあることがわかった。また、観点の中でも、関心・意欲・態度については、評価しにくく、中には授業態度と誤解しているケースもみられた。

(2) これらのことから、高等学校における学力評価システムの改善モデルについては、小・中学校における学力評価方式との関連性と教育課程経営のPDSサイクルの視点からの

検討の重要性を明確にした上で、現行の4観点別評価と評定を見直し、結果、知識・技能、論理的思考力、主体的学習態度の3観点と達成、要努力の2段階による目標に基づく評価と、自由記述方式による目標にとられない評価を合わせた学力評価システムの改善モデルを提案した。すなわち、実態分析をとおり、生徒の学習上の改善の手がかりや見通しを与え、学習意欲を高める学力評価方式の提案を行った点。

このように教師の指導においても効果的で、生徒にとっても学習の見通しが立つ学力評価システムの開発は、学術上および教育実践上、大きな意味を持つ。

この学力評価システムの改善モデルを実現させる条件として、教育専門性による校長等のリーダーシップと校内の教育実践と評価に関する情報交換ネットワーク、それを支える教育委員会の主体的な教育条件整備活動と大学入試改革の重要性を指摘した。

(3) 本研究の成果によって、高等学校の学力評価システムをめぐる議論において、また指導要録の改善に関する教育政策を立案する上での科学的な視点と根拠を提示することができる。各高等学校における学力形成と学力評価の改善を図る上での実践的な手がかりが得られる。教育行政が、指導行政、とりわけ高等学校の学力評価システムを支援する上での手がかりが得られる。すなわち、このシステムを実現、機能させる条件としては、教育専門性による校長等のリーダーシップと校内の教育実践と評価に関する情報交換ネットワークの形成が不可欠であり、それを支える教育委員会の主体的な教育条件整備活動と大学入試改革が重要であることを指摘した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計19件)

小泉祥一，教育課程経営の意義と課題 - カリキュラム・マネジメントのとらえ方 - ，下野教育，査読無(依頼論文)，第755号，2017年5月，12-17

小泉祥一，学校における教育課程経営の意義と課題，日本カリキュラム学会第28回大会発表要旨集録，査読無，2017年6月，155-156

小泉祥一・石田有記，現代日本の教育課程政策における政治・行政・経営をめぐる諸課題(その3) - 学校の教育課程経営とそれに関わる地方教育行政を中心に - ，日本カリキュラム学会第28回大会発表要旨集録，査読無，2017年6月，19-20

小泉祥一，中央教育審議会の審議過程における学習評価の特徴と課題 - 教育課程経営の視点から - ，野外文化教育，査読有，第15号，2017年3月，印刷中(10頁)

小泉祥一・石田有記，課題研究：現代日本の教育課程政策における政治・行政・経営をめぐる諸課題その2 - 中央教育審議会における政策形成過程の検討を中心として - ，カリキュラム研究，査読無，第26号，2017年3月，80

小泉祥一，教師の資質・能力向上と現職研修，教育時評，査読無(依頼論文)，第39号，学校教育研究所，2016年7月27日，10-15

長島康雄・小泉祥一，森林保全を学ぶ生物多様性教育のためのカリキュラムと評価の検討 - 群馬県における森林環境税の支援を受けた教育実践の事例分析を通して，日本カリキュラム学会第27回大会発表要旨集録，査読無，2016年7月，89-92

小泉祥一・石田有記，課題研究：現代日本の教育課程政策における政治・行政・経営をめぐる諸課題(その2) - 中央教育審議会における政策形成過程の検討を中心として - ，日本カリキュラム学会第27回大会発表要旨集録，査読無，2016年7月，20

小泉祥一・石田有記，特集2：現代日本の教育課程政策における政治・行政・経営をめぐる諸課題 - 教育課程基準に関する中央教育審議会の審議過程を中心として - ，カリキュラム研究，査読無，第25号，2016年3月，107

長島康雄・小泉祥一，森林環境税を財源とする学校林を活用した生物多様性に関する教育実践の意義と効果 - 群馬県館林市立D中学校の学校林の事例を中心として - ，野外文化教育，査読有，第14号，2016年3月，42-52

石田有記・小泉祥一，課題研究：現代日本の教育課程政策における政治・行政・経営をめぐる諸課題 - 教育課程基準に関する中央教育審議会の審議過程を中心として - ，カリキュラム研究，査読無，第25号，2016年3月，72

石田有記・小泉祥一，第6回研究集会，日本カリキュラム学会編，カリキュラム研究，査読無，第25号，2016年3月，73-74

小泉祥一，第 16 回大会シンポジウム：学校・地域における自然環境の教育的活用，野外文化教育，査読無，第 14 号，2016 年 3 月，4-6，10，13

小泉祥一，公開シンポジウム：広域巨大災害、復興と共生の教育を求め続けて，日本教育方法学会紀要教育方法学研究，査読無，第 41 巻，2016 年 3 月，89

小泉祥一，第 6 回大会公開シンポジウム：3・11 後の教育復興の政策と実践，公教育計画研究，査読無，第 6 号，2015 年 6 月，82 83，102 104

長島康雄・小泉祥一，野外文化教育の視点からみた里山の教育的意義，野外文化教育，査読有，第 13 号，2015 年 3 月，45-56

小泉祥一，第 15 回大会シンポジウム：自然・社会・人とのかかわりから 3・11 後の教育復興を考える - 「地域共生科」の提言を基に - ，野外文化教育，査読無，第 13 号，2015 年 3 月，25

長島康雄・小泉祥一，生物多様性に配慮した学校施設と学校施設整備指針の活用，野外文化教育，査読有，第 12 号，2014 年 3 月，31-41

小泉祥一・長島康雄・佐々木敏紘，野外文化教育としての生活体験が防災意識へ与える影響 - 仙台市と奈良市の中学生による交流活動の事例から - ，野外文化教育，査読有，第 12 号，2014 年 3 月，42-52

〔学会発表〕(計 17 件)

小泉祥一，学校における教育課程経営の意義と課題，日本カリキュラム学会第 28 回大会課題研究 提案者 (招待講演)，2017 年 6 月 25 日，岡山大学

内藤恵子・小泉祥一，新教科「地域共生科」開発の意義と効果 - 地域貢献活動を通して自己形成する子どもの育成を中心に - ，日本カリキュラム学会第 8 回研究集会，2017 年 3 月 5 日，お茶の水女子大学

小泉祥一，教育課程経営の視点から見た次期学習指導要領の特徴と課題，公教育計画学会 2016 年度研究集会，2016 年 12 月 10 日，関西大学

小泉祥一，中央教育審議会の審議過程における学習評価の特徴と課題 - 教育課程経営の視点から - ，野外文化教育学会第 17 回大会，2016 年 10 月 30 日，松山

大学

小泉祥一，シンポジウム：地域・自然との共生と癒し，野外文化教育学会第 17 回大会指定討論者，2016 年 10 月 30 日，松山大学

小泉祥一，高等学校における観点別評価と評定の現状と課題 - 中教審における審議過程に注目して - ，東北教育実践・経営学会第 38 回定例研究会，2016 年 9 月 24 日，東北生活文化大学高等学校

長島康雄・小泉祥一，森林保全を学ぶ生物多様性教育のためのカリキュラムと評価の検討 - 群馬県における森林環境税の支援を受けた教育実践の事例分析を通して，日本カリキュラム学会第 27 回大会，2016 年 7 月 2 日，香川大学教育学部

小泉祥一，高等学校における観点別評価の現状と展望 - 質の確保・向上、学習意欲の向上、活用能力の育成などの観点から - ，東北教育実践・経営学会第 37 回定例研究会指定討論者，2016 年 5 月 21 日，山形県大石田町福祉会館

小泉祥一，高等学校における学力評価方法の現状と課題，東北教育実践・経営学会第 36 回定例研究会 2016 年 2 月 27 日，山形市立第七小学校

小泉祥一，仙台市中学 1 年男子いじめ自殺事件の本質と解決方法 - 誇りと希望をもち、胸を張って喜んで通学できる学校にするために - ，東北教育実践・経営学会第 35 回定例研究会，2015 年 9 月 26 日，白鷗大学

小泉祥一，義務教育学校における自然環境の教育的活用，東北教育実践・経営学会第 34 回定例研究会指定討論者，2015 年 7 月 26 日，白鷗大学

長島康雄・小泉祥一，学校施設設備論の視点から見た里山の位置づけ，公教育計画学会第 7 回大会，2015 年 6 月 21 日，新潟大学

小泉祥一，小規模学校における教育実践，東北教育実践・経営学会第 33 回定例研究会、シンポジウム：小規模学校における教育実践と学校経営，提案者，2014 年 11 月 15 日，山形県東根市立第一中学校

長島康雄・小泉祥一，災害体験を地域文化として活かす生徒交流活動の意義と試み，野外文化教育学会第 15 回大会，2014 年 9 月 14 日，東北大学

小泉祥一, 震災後の社会と「地域共生科」の意義, 野外文化教育学会第 15 回大会 (基調講演), 2014 年 9 月 14 日, 東北大学

清岳こう・小泉祥一, 心を開く授業・活動に対する教師の意識調査 - 震災ボランティアスクール「ことばの移動教室」アンケート分析結果 -, 日本教育学会第 73 回大会, 2014 年 8 月 23 日, 九州大学

長島康雄・小泉祥一, 学校緑化にかかる教育行政の果たすべき役割と課題, 公教育計画学会第 6 回大会, 2014 年 6 月 22 日, 東北大学

(図書)(計 1 件)

小泉祥一, 教育課程・カリキュラムの経営研究, 日本教育方法学会編, 教育方法学研究ハンドブック, 学文社, 2014 年 10 月, 138-141

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小泉 祥一 (KOIZUMI, Shoichi)
白鷗大学・教育学部・教授
研究者番号: 3 0 1 3 6 4 1 0

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者

(4) 研究協力者

青山 純 (AOYAMA, Jun)
宮城県教育庁高校教育課課長補佐

石上 正敏 (ISHIGAMI, Masatoshi)
宮城県総合教育センター・所長

氏家 仁 (UJIE, Hitoshi)
宮城県仙台第三高等学校・校長,
前宮城県教育庁高校教育課長

石川 清志 (ISHIKAWA, Kiyoshi)
宮城県仙台三桜高等学校・校長

小笠原朋之 (OGASAWARA, Tomoyuki)
宮城県泉館山高等学校・校長

齋藤 公子 (SAITOU, Kimiko)
宮城県宮城野高等学校・校長

澤田 可知 (SAWADA, Kachi)
宮城県石巻好文館高等学校・校長

鈴木 悟 (SUZUKI, Satoru)
宮城県古川高等学校・校長

千葉 茂 (CHIBA, Shigeru)
宮城県中新田高等学校・校長

佐藤 邦宏 (SATO, Kunihiro)
仙台市立田子中学校・校長

菊地 真貴子 (KIKUCHI, Makiko)
東北大学教育学研究科博士課程院生,
栃木県那須塩原市立戸田小学校・教頭

宗形 潤子 (MUNAKATA, Junko)
東北大学教育学研究科博士課程院生,
福島県教育庁県中教育事務所・指導主事

齋藤 義雄 (SAITO, Yoshio)
東北大学教育学研究科博士課程院生,
栃木県那珂川町立小川南小学校・教諭

長島 康雄 (NAGASHIMA, Yasuo)
東北大学教育学研究科博士課程院生,
仙台市立西山中学校・教頭

芥川 祐征 (AKUTAGAWA, Masayuki)
東北大学教育学研究科博士課程・院生,
日本学術振興会特別研究員

松浦 弘志 (MATSUURA, Hiroshi)
東北大学大学院教育学研究科・研究生